

## 県高等学校 青少年赤十字 連絡協議会

### 第2回定例会 参加報告

活動日：2013年11月3日（日曜日）

場所：日本赤十字社神奈川県支部

参加者：山川好栄・山下美菜・長谷川ふみ

報告者：山川好栄・山下美菜・長谷川ふみ

補筆 武田 校正 伊藤

#### ◆ 生徒会としての参加理由と目的

- ① 加盟校として新たな知識を得るため
- ② 自分たちがスキルアップをするため
- ③ 他校との交流を深め、情報を共有しあうため



#### 障がい 疑似体験より

#### ◆ 当日の流れ

- ① 開会式
- ② アイスブレイク(レクリエーション) 内容 → 各ゲームの中で自己紹介
- ③ グループディスカッション = (震災後の現状、伊豆大島で発生した台風災害 2つの報告を基に)
- ④ グループ発表 = 各グループでの解決策の発表
- ⑤ 障がい疑似体験 = 視覚障がい体験・高齢者体験・車いす体験
- ⑥ 後期 役員選出
- ⑦ 閉会式



グループディスカッション中です



発表会は緊張しました



障がいの疑似体験は、初めての経験でした。目が見えないということは、恐怖心が出るのだと分かりました。車椅子を介助することは、簡単そうで配慮が必要なことが分かりました。経験して初めて知ることができました。



後期役員の方々



閉会式の様子

#### ◆参加してみて

神奈川県高等学校 JRC の運営を垣間見ることが出来ました。前期にあった第 1 回定例会は、高校野球応援があって本校では参加できませんでしたが、今回は、生徒会長の山川をはじめ、山下、長谷川の 3 人で参加が叶いました。今後も JRC の活動がどのようなものか、しっかり経験を積んでいきたいと思えます。

さて、今回の障がい疑似体験ですが、まず視覚障がい体験がありました。目に視野を狭めるためのゴーグルを掛けて二人一組で障害物のあるコースを歩きました。ゴーグルをつけると、視界が狭くなり歩行に自信がなくなります。さらに三角巾で目隠しをすると完全に周囲を見る事が出来なくなり、一人での歩行は困難でした。改めてわかることは、視覚障がいの場合、周囲の人の声や白杖が必要不可欠だということでした。

**記：長谷川ふみ**

高齢者体験では、肘・手首・膝・足首などの関節におもり入りのサポーターをつけて活動領域を制限しました。これは実際の高齢者が抱える身体機能の不自由さを実際に体験してみようという試みです。私たちの普段の生活とは違い、階段一段を上下するだけでも全身への負担が大きくその状態で重たい荷物を持つというのは本当に辛いことだと分かりました。こうした経験をしてこそ、高齢者に対するいたわりの気持ちが出てきますし、実際に手伝いをしたい気持ちも出てきます。

**記：山川 好栄**

車椅子体験は慣れると操作は簡単です。しかし地面と近いと、少しでも凸凹した道では、振動を受けやすいことが分かりました。また、段差や坂は補助する人にとってかなりの負担が掛ります。車椅子の操作は、常に車椅子を利用する相手のことを考えた上で操作をしなければなりません。思いやりの気持ちがなくては操作が出来ないことを知りました。

**記：山下 美菜**

#### ◆ まとめ

3.11の震災後の状況や伊豆大島で発生した台風被害のスライドは、テレビ報道とは印象が違いました。私たちが思ったことは、復興には時間がかかるということと、その復興が簡単ではないということです。私たちにできる事は少ないですが、正しい情報を多くの高校生に伝えたいです。そして協力できることを見つけていき、一日も早い復興につながるよう手伝いたいと思いました。